

京都市立病院機構 事務システム（端末環境）構築業務 提案評価項目

| 要求項目 | 提案評価項目 |
|-------------------|---|
| (1) 役務に係る提案 | <p>本提案にあたってのスケジュール案、導入タスク案、本機構職員との役割分担、事務システムのネットワーク機器/サーバ機器の導入事業者（事業者は別調達にて決定）との役割分担について、分かりやすく提案書に記載すること。</p> <p>移行計画として、確実な稼働を担保する手法や、端末管理に係る本機構職員の業務負担を増加させないための手法について提案すること。</p> <p>障害発生時に速やかに対応・復旧するための工夫について提案すること。</p> |
| (2) システムの将来像に係る提案 | <p>本案件調達における本院の抱える背景、目的、課題意識について応札者の理解を示すこと。その際に、本調達後の事務システムの在り方について、電子カルテも含む本機構の状況を踏まえて応札者の考えを示すこと。</p> <p>将来的に端末台数が増加する、あるいは事務システム以外の端末においても同様のシンクライアント化を行うと想定した際に、より安価にかつ合理的に拡張を行うにあたって応札者の考え方を示すこと。</p> |
| (3) 機能要件に係る提案 | <ul style="list-style-type: none"> ・シンクライアント化における技術方式は、VDI、SBD/RDS/RDSH等の方式が一般に考えられるが、本提案にあたって採用する技術方式を明示し、その特徴、利点、留意点を提案書に示すこと。 ・採用する技術方式について、特に性能面、耐障害性、運用性に係る利点、留意点を提案書に示すこと。 ・提案した方式以外の技術方式を採用しなかった理由について、具体的に提案書に示すこと。 <p>・本提案にあたって採用する技術方式のうち、認証方法に関して詳細を提案書に記載すること。記載にあたっては、物理端末環境と比較した場合の違い、システム管理者・利用者から見た場合の違いについても具体的に記載すること。</p> <p>・現行端末をシンクライアント端末として再利用する場合の具体的な技術方式、手法を詳細に提案書に示すこと</p> <p>・現行端末をシンクライアント端末として再利用する場合において、システム管理者・利用者に対応しなければならない事項を具体的に示すこと。合わせて、本機構職員の業務負担を増加させないための手法について提案すること</p> <p>・現行の端末台数、端末調達時期、配備部署の状況を踏まえて、再利用に関する具体的な台数案をその理由と共に提案書に記載すること。</p> <p>・既存の周辺機器の継続使用、及び機器接続にあたっての技術方式について、考え方を提案で示すこと</p> <p>・操作ログの採取、接続機器管理（資産管理）についての考え方を提案で示すこと</p> <p>端末追加する場合、どのような方式で追加を行うのか、運用面も含めて詳細に提案書に記載すること。また、端末の追加費用（1台あたり。環境変更が発生するのであれば、その費用も含む。）の想定を提案書に明記すること。</p> |
| (4) 資格・体制等に係る提案 | <p>応札者のこれまでの経験・実績を示し、端末の仮想化（シンクライアント化）の導入・移行においてどのように経験を活用するのかを示すこと</p> <p>・応札者のこれまでの経験・実績を踏まえ、端末の仮想化（シンクライアント化）の導入における利点、及び留意点を示すこと。ここでの留意点とは、物理端末環境からシンクライアント環境に変更することで、物理端末環境と比較して運用・機器操作等で変更が発生しうるもの（システム管理者・端末利用者を含む）を指す。</p> <p>・留意点については、本機構のシステム管理者・端末利用者に対して、現行運用・機器操作等に対してどのように理解を求め、合理的な導入を行うのかを整理して提案に記載すること。</p> <p>導入を進める際の体制・工程割の工夫について提案すること</p> <p>会社としての品質評価体制について提案すること</p> |
| (5) その他の提案 | <p>保守契約方法と保守期間について合理的な方法を提案すること。提案にあたっては、7年の保守運用期間を前提とし、合理的かつ適正なコストで運用保守を行う方法を提案すること</p> <p>その他病院業務に有用な提案</p> |